

講義名	朝鮮文化研究			
担当教員	張 京花			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 5時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

日本と韓国は、2002年韓日ワールドカップの共同開催や「韓流」ブームなどを契機にすっかり身近な存在となった。だが、依然として日本と韓国両国の間では過去問題をめぐる軋轢が続いており、北朝鮮によるミサイル発射は朝鮮半島問題に対する日本人の認識に否定的な影響を与えている。それにもかかわらず、日本と韓国は歴史的に地理的にもっとも近く、戦後国際政治において多くの利益を共有している連合共同体である。さらに、近年激化する東北アジアの国際情勢において、両国はパートナーシップを築っていく必要がある。一方、韓国や朝鮮半島に対する理解は、日本人のみならず諸外国の人や在日コリアンにおいても必要である。そのため、本講義は日本人学生に限らず留学生や在日コリアンにも有意義な講義になると考えられる。本講義を通じて、受講生が現代韓国の大衆文化のみならず朝鮮半島全体に対する理解を深め、近年迫ってくる朝鮮半島の平和体制構築や国際情勢の変化に対しどうするべきかを考える上で、有意義な手掛かりを提供したい。

到達目標

本講義では、主として今日の韓国文化や韓国人の意識を中心に紹介するが、現代韓国に対する理解を深めるため、朝鮮半島の歴史、伝統文化、在日コリアン、南北関係など多角的に学ぶこととする。そのため、到達目標を次のようにしたい。

韓国と北朝鮮が共有している朝鮮半島の歴史、伝統文化と芸術について理解する。

現代韓国の食文化、若者の意識、大衆文化などを紹介しつつ、日本（もしくは、受講生の本国）のそれと比較して考察することとする。

韓国・朝鮮に対して理解し、韓国と日本が互いに心強い隣人として協働する可能性を探る。

日本語ではない留学生や在日コリアンなどの受講生においても、本国と韓国・朝鮮を比較・考察できる有意義な講義とする。

提出課題

毎回講義の内容をまとめて提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回講義でコメントを紙で書いてもらっているため、全体に対するフィードバックとして、次回の授業で前回の内容についてフィードバックをする。

評価の基準

平常点：50%（小レポート＆授業中のコメント、出席点などを含めた総合的な評価）
（大学のOMRカードを利用して出席をチェックする。授業開始から30分が過ぎたらOMRカードを配布しないので欠席となる）
期末レポート：50%

履修にあたっての注意・助言他

授業中飲食物、私語は厳禁
代理出席は厳しく禁ずる
授業中作成したコメントから授業に対する理解度を判断することがある。

教科書	.使用しない。			

プリント資料及び参考文献

曹美庚『韓国文化を読む』朝日出版社、2010年
木宮正史『国際政治のなかの韓国現代史』山川出版社、2012年
朴一『超境する在日コリアン 日韓の境間で生きる人々』明石書店、2014年

授業計画

履修者の理解度や関心度に合わせて授業を進めるので、多少変更することがある

第1回 オリエンテーション（受講上の注意事項など）、文化とは？
第2回 現代韓国人の日常生活
第3回 朝鮮半島の歴史：古代・現代
第4～5回 国際情勢と分断国家の運命
第6回 根強い儒教的伝統
第7回 韓国人の食味
第8～9回 韓国の伝統的な家庭・民家
第10-12回 在日コリアンは誰か
第13回 K-POPのDNA：朝鮮半島の伝統音楽と現代韓国の大衆音楽
第14-15回 韓国若者の諸相

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習 講義の流れに応じて、参考文献などを参考に与えられた事前課題を解いてくる（2時間）
復習 本日の講義の要点を整理する（2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

2020年度は、入力不要

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業に必要な資料を配るが再配布はしないので大事に保管すること。